

【6】 高等部の生徒に見られたからだづくりの成果

我々は、からだづくりの目標を「すすんで生き生きとからだを動かす子」として取り組んできた。これは言いかえると、生徒自らが、「主体的」・「意欲的」に自らのからだをつくりあげてほしいとの願いをこめた取り組みであった。そして、その中で培ってきた健康で強い意思を備えた「からだ」でもって、堂々と社会に巣立ってほしいと考えてきた。

ただ、高等部の場合、本校の小・中学部を経て入学してくる生徒と、高等部になって、障害児学級から入学してくる生徒との間に、さまざまな育ちのちがいがあり、その成果を一定の基準でもって評価することは難しかった。

しかし、研究の最終年次でもあり、教育課程の全領域での取り組みの中で、個人事例としてとりあげた3例の他に、顕著な成果といえる事例を以下とりあげてみた。

(1) 運動場面での取り組みから

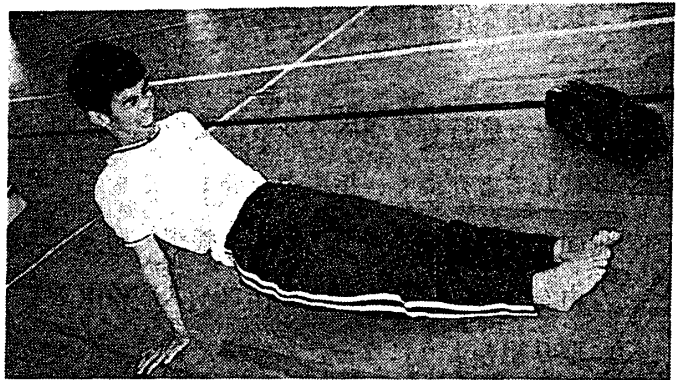
① 課題別養訓（からだづくり養訓）

◎ 肥満を解消し、動きが軽くなってきたH・O（3年女）

入学時の体重は90kgもあり、運動をしても動きが緩慢であったが、運動量の確保に努める中で現在では約10kgの減量に成功した。この結果、10分間走をはじめとする運動場面での動きが軽くなり、県養護学校高等部の長距離走において6位入賞の成績をあげるまでになった。

◎ 腎ネフ体操と食生活の管理で、健康を回復しつつあるK・O（3年男）

3年生の春に慢性腎炎（腎機能30%）の診断を受けたK・Oは、現場実習についても2時間程度の勤務が限界とされてきたが、鳥取養護学校（病虚弱養護）で作成された「腎ネフ体操」をとり入れた取り組みの中で、半日までの就労が可能となった。



腎ネフ体操中のK・O

◎ 中学部入学前、歩行すら困難であったが

現在では10分間で600mを走ることができるようになったS・N（2年男）

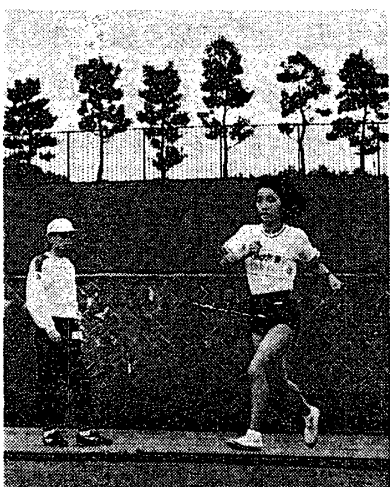
中学部の入学選考時に、歩行ができなく入学を1年断念したS・Nは、朝の活動での筋力強化のトレーニングを続ける中で、現在では、小走りにではあるが長距離走をこなすまでに成長してきている。2学期の運動能力テストでは、入学以来はじめて1500mを27分10秒で完走することができた。

② 朝の活動（10分間走）

・ 県養護学校高等部運動会長距離走で二連覇したM・N（3年女）

高等部入学時には、脆弱な体位で運動にも自信のなさがめだったM・Nであるが、取り組みの2年次の頃より、友だちとの10分間走の競い合いの中で力をつけ、県高等部運動会長距離走（10

00m) では、昨年に続いて、タイム4分37秒で二連覇した。



スポーツ祭でトップで力走するM・N

- 自主的な登校直後の朝の長距離走練習で急速なタイムの向上がみられ、3年生のN・Sと対等に競い合うようになったH・K(2年男)

バス通学の関係で登校時間が早いため、自ら、その時間を利用して朝の練習を繰り返していたが、今年の春頃から、本校男子の長距離走でトップを走っていたN・Sに対等に競い合えるまでに成長してきた。朝の活動の10分間走が定着し自らが目標にむかって努力しはじめている例である。

③ 保健体育科 (バスケットボール)

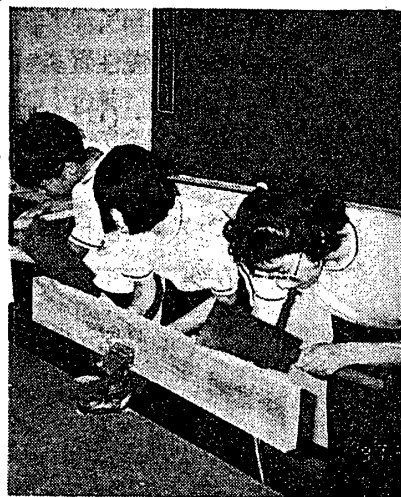
- 中学校の障害児学級時代、登校拒否の傾向があったM・N(3年男)の運動能力の向上

高等部入学時は非常に暗い表情をして、学校も休みがちであったが、3年間、特に体育の時間の取り組みの中で、ボールゲームを中心に運動能力の向上が著しい。しかも、その力が生活全体にも大きく反映し、メンタルな面での成長を促した。現在、バスケットボールチームのかなめとなり、他校との交流試合でも、みごとなシュートを決めている。

(2) 生活場面 (職業科を中心に) での取り組みから

- 意欲的な作業態度で学習参加できるようになったK・S(2年女)

ダウン症特有の頑固さから作業や学習活動を拒否し、床にふさぎこむことが多く、指導者を悩ましてきた。しかし、今年の運動場面の取り組み(からだづくり養訓・10分間走等)を通して培った力を背景に、職業科(製作コース)の中でも根気強く製作活動に取り組むようになった。学級での活動でも積極性が生まれているが、かなり困難でないかと考えた、夏の現場実習では、仕出し屋での一ヶ月の実習を立派にやりとげることができた。



茶たぐづくりに取り組むK・S(中央)

- 職業科(技能コース)で、指導的な役割りをはたしはじめたS・M(2年女)

重度・重複化のすすむ高等部の中であって、研究テーマの“すすんで、生き生きと活動する、”という目標がむずかしくなっている。

その中で、主体性をもって活動する生徒を育てることは、重要な意義をもっている。特に今年の3年生が卒業した後のリーダー養成の必要が求められている中で、技能コース(印刷)に属してきたS・Mが、3年生が現場実習で不在のときに、自覚的にリーダーをかってでて、みごとにグループを指導しきる力を発揮した。